

日本めだか年鑑

2016 年版・2017 年版



◆ 第 15 回全国めだかシンポジウム in 豊岡大会報告 (2015 年) ◆

◆ 第 1 回日本めだかトラスト研究大会 in 高知 (2016 年) ◆

◆ 全国各地のめだかの活動報告 ◆

❖ もくじ ❖

◎ もくじ	1
1. 卷頭言「今年も皆様のますますのご活躍を願って」 日本めだかトラスト協会 会長／岩松 鷹司	2
2. 「15回全国めだかシンポジウム in 豊岡」大会 （実施報告）	3
3. 「第1回日本めだかトラスト研究大会 in 高知」 （実施報告）	13
（●NPO 法人グラウンドワークひだかむら ●(公社) 生態系トラスト協会：高知県）	
4. 各地の活動報告	16
1 ● NPO 法人 四街道メダ力の会（千葉県）	17
2 ● 藤沢メダ力の学校をつくる会・同 PTA（神奈川県）	19
3 ● NPO 法人シニア自然大学校・調査研究部門 水辺環境調査会（大阪府）	20
4 ● 和泉めだかネットワーク（大阪府）	22
5 ● 福岡めだかの学校（福岡県）	24
6 ● 小嶺水辺の教室（福岡県）	25
7 ● NPO 法人メダ力の学校かごしま（鹿児島県）	27
5. 平成27・28年度 理事会報告・平成29年度 理事会・総会の議題について	31
◎ 第16回全国めだかサミットシンポジウム in 明見湖 告知4	32
◎ 入会のご案内	33
◎ 編集後記	34



(表紙写真：豊岡大会 2015 で訪れたビオトープ風景・写真上：豊岡大会で上映されたかみしばい)



「今年も皆様のますますのご活躍を願って」

日本めだかトラスト協会会長 岩松 鷹司

今から15年前の「日本めだか年鑑」を見ると、会員の皆様のメダカと環境教育、環境調査、環境保全などへの熱い思いが伝わってきます。誰もが健康で豊かな暮らしを望み、そのための自然環境の大切さを確信し、活動している様子が手に取るようにわかります。また、当時は、水に溶け込んで私たちのからだを侵す農薬、身のまわりの衣食住の品々からのPCBやダイオキシンなどのような化学物質が環境破壊、病気や不安などを引き起こしていることも社会問題になっていました。今もその問題は解消されておらず、化学工業協会ではこうした環境問題に関する意識の向上（greening）を狙うと共に、「環境中の化学物質の評価と信頼できる管理」を目指しています。そのために、環境を汚染する化学物質の溶け込む水の中で生きているメダカなどが環境汚染を評価する指標動物として注目されたのです。全国の水質汚染だけでなく、変わりゆく水辺環境の実態を把握するためにも私たち市民の活動によってメダカの生息状況を持続して知る必要があります。2000年の「日本めだかトラスト・ハンドブック」には、会員の皆様による“全国親子めだか調査”が集計されておりますが、これからは水辺の実態を把握できる項目に従って経年的にメダカや水辺の生き物の生息状況を調べることを、日本めだかトラスト協会の活動の一つにしたいものです。こうしたメダカの生息調査やビオトープづくりは、今では水辺環境に関心を高めるためにも重要であることが熟知され、全国で環境教育の一環として活発になってきました。そして、そのお蔭で大人と子供がともに“ふれあい”的な機会が増えて、教育の場が広がっています。

メダカも魚です。私たちヒトと同じ背骨のある動物です。小学校の子供たちには、ヒトの代わりに、卵から子供ができるまでを見させています。会員の皆様の中にも小学校での理科の授業を支援しておられる方がいます。私も数年前から毎年のように理科「メダカのたんじょう」で小学5年生とふれあいをもっていますが、そのとき私たちと基本的には同じ内臓をもち同じ病気にかかるメダカのことにも触れ、メダカから生命を学んでもらう機会にしています。環境教育だけではなく、こうしたメダカを活用した理科教育の支援も協会会員の役割の一つにできればと、勝手に願っています。

近年、会員の皆様によるメダカの生息調査が全国あちこちで活発になり、喜ばしいことです。それらの報告によりますと、外来魚や愛玩用のヒメダカなどが地域の自然水域に放流されている事実が相次いで判明しています。特に、観賞魚として華麗なメダカの改良品種にペットとしての関心が高まっておりますが、しかしそれらが自然へ放流され、地域固有種の消失が危ぶれます。地域の在来の水辺環境を保全するためにも、ペットなどの放流場所として地域や学校のビオトープを活用できれば、生態系の仕組みも学ぶことができるのではと勝手なことをふと思うこの頃です。日本めだかトラスト協会は、かつて2001年に皆様による素晴らしい「残したいメダカのいる風景」写真集を作りました。それは“私たちは子孫に何が遺せるか”という問いかけの一つでした。皆様には、これからも地方自治体に支援をいただき、互いに協力し合って地域が誇れる美的景観と水中の多様な在来生物を子孫に遺す持続的なボランティア活動を期待しています。

第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡（実施報告）

みんな ながよき つうぜ紀を あよごう

新豊岡市誕生10周年記念

第15回 全国めだかシンポジウム in 豊岡 2015/8月22(土)・23日(日)

会場： 8/22 じばさん TAJIMA

(豊岡市大磯町1-79 TEL0796-24-5551)

8/23 コウノトリの郷公園コウノトリ文化館集合

(豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128 TEL0796-23-7750)

当日入場無料



主催： 全国めだかシンポジウム in 豊岡 実行委員会
共催： 日本めだかトラスト協会・コウノトリ市民研究所
豊岡めだか遊友会 六方めだか公園
後援： 兵庫県但馬県民局
豊岡市新市誕生10周年記念事業
助成： コープこうべ環境基金
生物多様性ひょうご基金
(イオン株式会社の寄付金) 助成事業
協賛： セカンドクラス旅設計事務所



TEL090-1024-3152

事務局：〒668-0865 兵庫県豊岡市下鉢山字神主田 120 六方めだか公園 岡本 邦夫 FAX 0796-27-0235

当日パンフレットより

第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡（スケジュール）

- 1日目：8月22日（土）
- 9:00 シンポジウム会場準備（じばさんTAJIMA 2F 多目的ホール）
*展示・発表の方は会場入りされ次第準備できます
 - 11:00 理事会（2F 第1交流センター～12:00）
 - 12:00 展示見学（シンポジウム会場）・（第1交流センターはこの後控え室）
-
- 13:00 シンポジウム（2F 多目的ホール） 司会：近畿大学豊岡高校放送部
 - 13:00 開会式 •オープニング（和太鼓演奏）「めだかの学校～ふるさと～」八代保育園
 - 開会あいさつ 実行委員長 岡本 邦夫
 - 会長あいさつ 日本めだかトラスト協会会长 岩松 鷹司
 - 豊岡市歓迎あいさつ 豊岡市長 中貝 宗治
 - かみしばい「そらとぶめだか のひみつ」 福井敏明・由美子
 - 13:40 活動報告・研究発表
 - 1 「地域の自然を使って」 東郷池メダカの会 中前雄一郎
 - 2 「九州のメダカの遺伝子」 福岡めだかの学校 奥小田 寛
 - 3 「飼育下のメダカの寿命」 小瀬水辺の教室 今村 高良
 - 4 「メダカ飼料の研究」 株式会社キヨーリン 屋宣 信浩
(意見交換)
 - 14:30 参加団体活動紹介 武生めだか連絡会・野メダカを育てる会・シニア自然大学校 和泉めだかネットワーク・藤沢めだかの学校をつくる会・中間ほたるメダカの会 生態系トラスト協会・環境ネット出石・コウノトリ湿地ネット。 他
 - 休憩 —
 - 15:10 豊岡・但馬の生きもの環境
 - 1 「加陽湿地の生き物調査」 豊岡市立中筋小学校
 - 2 「ハチゴロウの戸島湿地の魚類調査」 兵庫県立豊岡総合高校
 - 3 「弁天淵の生物調査」 兵庫県立 香住 高校
 - 4 「めだかとともに」 豊岡めだか遊友会 吉岡 博司
 - 5 「スコップ一本でもできること」 ピオトープ施工管理士 宮村 良雄
 - 6 「豊岡盆地にすむさかな」 コウノトリ市民研究所 北垣 和也
(意見交換)
 - 16:15 環境提言
 - 1 「メダカの声なき叫び」 日本めだかトラスト協会 岩松 鷹司
 - 2 「中池見湿地はメダカのマンモス校」 ウエットランド中池見 笹木智恵子
 - 3 「めだか平和宣言」 2000.8.全国めだかサミット
 - 4 「日本めだかトラスト協会設立宣言」 2000.12.9.
(意見交換)
 - 16:45 閉会式
 - まとめ コウノトリ市民研究所所長 上田 尚志
 - 理事会報告・次回開催紹介 日本めだかトラスト協会 中村 澄男
 - 次回開催地あいさつ
 - 17:00 終了・懇談・展示交流— (→かたづけ→17:50 交流会へ移動)
マイクロバスも出ます
-
- 18:00 交流会（ホテル大丸：豊岡市大手町 1-27 豊岡駅前 TEL0796-22-6125）

2日目：8月23日（日） 体験教室（9:00 集合：コウノトリの郷公園内 コウノトリ文化館）

9:00 全体説明

9:30 体験A—豊岡のピオトープ見学・めだか観察会

マイクロバス又は自家用車に分乗して 市内各所ピオトープを巡回し めだかの生息状況などを観察する

体験B—メダカの観察・メダカの発生モデル授業（愛知教育大学：岩松鷹司）

メダカの発生（誕生）を顕微鏡・モニターにより観察する

デジカメがあれば データ入手（写す）することができる
郷公園内のピオトープでメダカの観察も行う

12:00 終了

午後 時間のとれます皆様は コウノトリの郷公園にて

食事・コウノトリの観察・展示見学・物産・お土産等 時間の許す限り
ご自由にお楽しみください

～大会趣旨～ テーマ：

「みんななかよく 21世紀を泳ごう」



【開会ごあいさつ】

第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡
実行委員会 委員長 岡本 邦夫

ご参加ありがとうございます。21世紀となりました。めだかと私たちはこの日本めだかトラスト協会に集い、15年となりました。

めだかは体も小さく泳力も弱く、人の生活と共存することで命を繋いできました。体が小さいゆえに環境が整えば目覚ましく数を増やすことができます。しかし、人に忘れられた時には、大きな危機が訪れます。

20世紀は、開発と産業・生活の排水により絶滅寸前に追い込まれました。その後、工場等生産拠点の海外転出、下水道の整備により環境が回復し、危機を脱しました。その間、めだかたちを支え続けたたくさんの人たちの努力がありました。

今、再び、めだかに大きな危機が訪れています。ひとつは、定着して猛威をふるう外来の生物。ひとつは、めだかとともに歩んで来た人々の生活に大きな不安が訪れていることです。めだかは小さいがゆえに見えにくいということもあります。人の生活なしにめだかが存在することは難しいのです。

ここ豊岡では、絶滅の危機にあるコウノトリとの共存を願い、人の生活と産業を考えるさまざまな営みが続けられています。ラムサール湿地、ジオパークの認定・更新とともにめだかを含むたくさんの生きものの調査・研究も続けられています。

かつて、泳力の弱いめだかは、鳥や人の生活に運ばれて棚田を登っていました。豊岡のめだかは、遺伝子学的に南日本と北日本のハイブリッドだとされています。めだか本人は、山を越え海を泳いで互いに交流することは難しいです。その中で、この地豊岡でめだかと生きものを愛する皆様の「背に乗って」めだかシンポジウムが開催される意識は、きわめて大きなものがあるといえます。

今回のシンポジウムでは、日本各地での活動報告を中心に交流したいと考えています。たくさんの皆様からの発表、提言、レポート参加をお待ちしております。

合言葉は、「みんななかよく 21世紀を泳ごう」です。

開会のごあいさつ

このたびは、ご多用かつ暑中「第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡」に熱意をもって参加下さいました皆様方に、心からお礼申し上げます。ここ豊岡では、絶滅の危機にあるコウノトリとともに、私たちの生活の背景にある自然を重視して、自然を保全することによっていつまでも平和な社会が発展し続けることを願っております。そのような願いは、メダカと共に自然を見つめ、保全しようと願う人々に共感を得て、このシンポジウムが開かれることになりました。豊岡市は、地域の持続的開発・発展のための環境保全活動をしていて、全国各地域の取り組みのモデルにもなりましょう。このたびのシンポジウムに於いて、自然を大切にしている豊岡の活動に学び、そして参加者の皆様が自らの活動を発表し、意見を交えて互いに心を通わせる機会になりますように切望します私の挨拶といたします。



日本めだかトラスト協会会長
岩松 鷹司

歓迎のことば

「第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡」が盛大に開催されますことをお祝い申しあげますとともに、全国から豊岡にお越しいただきました多くの皆様を心から歓迎いたします。

豊富な雪解け水で小川が潤される春、市内各地で田植えの準備が始まります。やがて田んぼに水が張られると、サギやコウノトリがやって来てエサを探す姿が見られ、梅雨が明けて暑さが本格的になる夏には、虫を求めて子どもたちが駆け回ります。秋には頭を垂れる稻穂にアカトンボがとまり、米づくりの終った田んぼはやがて雪原となります。四季折々に訪れる郷の風景は、私たちの暮らしと密接に関わりながら形づくられてきました。

そして、その風景の中に広がる山林や緩急さまざまな河川、変化に富んだ海岸線など多様な地形の中では、さまざまな生きものが相互に作用しあって命をつなぎ、豊岡の豊かな自然が形づくられています。

一方では、失われてしまった自然もあります。私が子どもの頃には、学校帰りの水路でメダカを見ることができ、田んぼには小魚を狙うタガメの姿がありました。しかし今、メダカはすっかり減ってしまい、タガメはもう何十年も見つかっていません。

私たちの命がかけがえのないものであるように、全ての生き物の命もかけがえのないものです。自然界に大きな影響を及ぼす力を持つ私たちは、多様な生きものと共に暮らしていること、多様な生きものの恩恵を受けて命を繋いでいることを深く理解し、その力を自然の保全と再生に注がなければなりません。

豊岡では、人と生きものの在り方を再構築し、命の繋がりを広げ、未来へ引き継いでいくための羅針盤となる「豊岡市生物多様性地域戦略」を策定しました。この戦略の表紙には「いのちが響きあう豊岡をめざして」と記しています。この言葉に込めた豊岡の願いが、メダカという種を通して皆様の活動によって、全国、世界へと広がっていくことを願っています。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催にあたりご尽力を賜りました実行委員会の皆様をはじめ、関係者の皆様に感謝しますとともに、本シンポジウムのご成功を心からお祈りします。



豊岡市長 中貝 宗治

● 一日目（2015/8/22）

8月22日（土）、兵庫県豊岡市で「第15回全国めだかシンポジウム」が行われました。会場は、「じばさん TAJIMA」。イベント前には理事会が行われ、今後の会の活動などについて意見交換がなされ、活動提案が活発に出されました。理事会を終えて記念撮影をしました。

いよいよオープニングは、子どもたちの和太鼓演奏から始まりました。シンポジウムは、実行委員長の岡本邦夫氏の挨拶から始まり、岩松会長、中貝市長と続き、紙芝居「そらとぶめだかのひみつ」を福井敏明さん・由美子さんによって上演されました。続いて、東郷池メダカの会、福岡めだかの学校、小嶺水辺の教室、株式会社キョーリンの4つの団体から研究発表があり、その後、全国から集まった各団体の活動紹介がありました。

休憩を挟んで、豊岡・但馬の生きもの環境をテーマに、地元の小学生や高校生、市民団体、コウノトリ研究所から調査報告や研究報告がありました。会場では、グループの展示や発表もありました。

次に岩松鷹司会長、ウエットランド中池見から環境提言のメッセージが発表され、めだか平和宣言、日本めだかトラスト協会設立宣言があり、無事に閉会式を終えました。

夜6時からは全国の仲間が集まって懇親会が行われ、食事をしながら各地域の団体の紹介タイムが順に楽しく繰り広げられました。



● 二日目（2015/8/23）

8月23日（日）の体験教室は、コウノトリの郷公園に9時に集合でした。会長の岩松鷹司先生と事務局メンバーは、準備のため早めに会場に入りました。9時の開園前には野生のコウノトリの姿が見られるそうです。その言葉通りに野生のコウノトリがすぐ近くを飛んでくれました。



野生のコウノトリ



展示ポスター



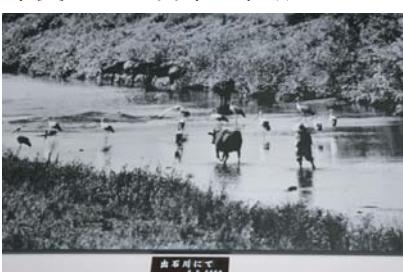
兵庫県コウノトリの郷



飼育されているコウノトリ

写真のように首を後に曲げてから、クチバシを鳴らしながら首を下に降ろします。このときノドが膨らみ赤い部分が見えるのでした。これが噂のクラッタリング（クチバシで音を出す）です。コウノトリの動作はゆっくりしていて、本物を見て「模型？」と聞かれることもあるそうです。案外のんびり屋さんのコウノトリ。日本で絶滅した理由は、そんなところにもあるのかもしれません。一度絶滅してしまった経緯はトキと同じで、今は人工繁殖したものが野外に帰っています。大型の鳥が復活するには彼らが住める環境が必要です。地域的な保護対策も必要ですが全国的な環境保護の大切さを感じました。

室内に展示してあった風景写真は、昭和35年のこの近くの出石川の風景。冊子などでもよく紹介されている写真です。（写真左下）コウノトリと人と但馬牛、生きものたちが共生していた時代ですが、それはそんなに遠い昔のことではありません。このあと、コウノトリは保護の甲斐もなく日本で絶滅してしまいました。



S35年出石川の風景



職員からコウノトリの話を聞く



実験準備をされる岩松会長

9時になり、この日の体験教室が始まりました。コウノトリの郷の職員さんから説明を聞きました。その後は、「豊岡のビオトープ見学チーム」と「めだか発生の観察チーム」に分かれました。ビオトープ見学では、4カ所のビオトープを見学しましたが水辺の環境を守るには、草の除去などの作業が大変な様子でした。水辺の環境はどんどん変化していくので、いい環境を保つには、人の手が欠かせないことがわかりました。「めだか発生の観察チーム」は、岩松先生の講義を聞きながら発生のメカニズムをわかりやすく学ぶことができました。最後に、終了時間を過ぎてしましましたが、コウノトリの郷公園のビオトープで生き物をタモで捕らえてヤゴやゲンゴロウ、メダカの姿を観察しました。今回も学びのある楽しい全国めだかシンポジウムでした。自分の住む地域以外に出かけることは、いろんなことを知る上で大切なことだと思いました。参加のみなさま、暑い中ほんとうにお疲れさまでした。（報告：事務局）



ビオトープ見学のようす



第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡（実施報告）

1日目



豊岡市 中貝宗治市長 / 歓迎挨拶



実行委員長 岡本邦夫 / 挨拶



全国メダカトラスト協会 岩松鷹司会長 / 挨拶



オープニング／八代保育園和太鼓演奏
福井敏明・由美子さん



手作り紙芝居「そらとぶめだかのひみつ」
福井敏明・由美子さん



活動報告「九州のメダカの遺伝子」
福岡めだかの学校 與小田 寛氏



活動紹介 大阪 シニア自然大学校 林美正氏 「加陽湿地の生き物調査」
豊岡市立中筋小学校



「ハチゴロウの戸島湿地の魚類調査」
県立豊岡総合高等学校



「弁天池の生物調査」
県立香住高等学校海洋科学科



「スコップ一本でもできること」
ビオトープ施行管理士 宮村良雄氏



「豊岡盆地にすむ さかな」
コウノトリ市民研究所 北垣和也氏

第15回全国めだかシンポジウム in 豊岡（実施報告）



環境提言「中池見湿地はメダカのマンモス校」
ウェットランド中池見 篠木 智恵子氏



意見交換の様子
司会・近畿大学付属豊岡高校放送部



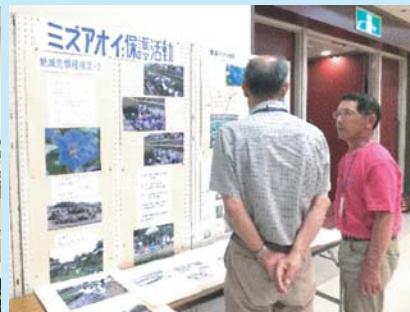
閉会式「まとめ」
コウノトリ市民研究所所長 上田 尚志氏



閉会式「理事会報告」
日本めだかトラスト協会 中村滝男 事務局長



展示パネルブースの様子



全体説明 / コウノトリ文化館にて

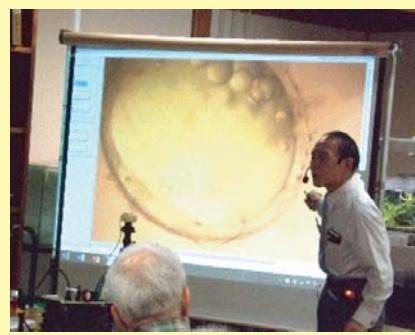
2日目



《体験A ビオトープ見学》



《体験B メダカの発生モデル授業》 愛知教育大学 岩松 鷹司氏



第15回 全国めだかシンポジウム in 豊岡 アンケートまとめ1

2015年8月22日(土)～23日(日)：兵庫県豊岡市において

◎ シンポジウム／8月22日(土) 13:00～17:00 じばさん TAJIMA

参加者数 210名／回答者数 114名／(○)は、いくつでも記入可

1 オープニング (79) 和太鼓演奏「めだかの学校～ふるさと～」 八代保育園

(64) かみしばい「そらとぶめだか のひみつ」 福井敏明・由美子

2 活動報告・研究発表

(42) ①「地域の自然を使って」 東郷池メダカの会 中前雄一郎

(31) ②「九州のメダカの遺伝子」 福岡めだかの学校 輿小田 寛

(46) ③「飼育下のメダカの寿命」 小嶺水辺の教室 今村 高良

(25) ④「メダカ飼料の研究」 株式会社キヨーリン 屋宜 信浩

3 参加団体活動紹介 (37)

武生めだか連絡会・野メダカを育てる会・シニア自然大学校・中村一葉・和泉めだかネットワーク・藤沢めだかの学校をつくる会・中間ほたるメダカの会・生態系トラスト協会・環境ネット出石・コウノトリ湿地ネット・カジオカLA・めだかの学校かごしま・桃島池の自然を考える会・コウノトリ市民研究所・六方めだか公園

4 豊岡・但馬の生きもの環境

(76) ①「加陽湿地の生き物調査」 豊岡市立中筋小学校

(46) ②「ハチゴロウの戸島湿地の魚類調査」 兵庫県立豊岡総合高校

(50) ③「弁天淵の生物調査」 兵庫県立香住高校

(24) ④「めだかとともに」 豊岡めだか遊友会 吉岡博司

(32) ⑤「スコップ一本でもできること」 ビオトープ施工管理士 宮村 良雄

(41) ⑥「豊岡盆地にすむ さかな」 コウノトリ市民研究所 北垣和也

5 環境提言 (37) ① メダカの声なき叫び 日本めだかトラスト協会 岩松 鷹司

(36) ②「中池見湿地はメダカのマンモス校」 ウエットランド中池見 笹木智恵子

6 司会 (63) 近畿大学付属豊岡高等学校 放送部

7 ～自由記述～

- ・全国めだかシンポジウムが、今後も引き続き開催されることを願っています。(同意多数)
- ・オープニングの太鼓、紙芝居や高校生の司会が印象的でした。(同意多数)
- ・豊岡市長さんのお話、良かったです。
- ・「まとめ」の上田所長さんのお話、とても良かったです。
- ・長い年月、メダカを育ててきました。種々の実践発表が大層参考になりました。この後の交流会で、さらに経験談が聴けると楽しみにしています。
- ・初めてのシンポジウム参加で、いい勉強になりました。良い資料をありがとうございます。
- ・「めだか」とあなどれない奥深い研究内容もあり、目からうろこです。活動に敬意を表します。「これから私も」という思いで帰ります。行政のバックアップも大切ですね。
- ・発表がたくさんあり、様々なことが学べて、とても良かったです。(同意多数)
- ・内容が盛りだくさんで、個々の発表時間が短く、もう少しじっくりと聞きたかったです。
- ・参加団体の活動紹介は、交流会で行えば良いのでは。
- ・今回は基調講演がなく、その分、多くの実践発表で構成されており、新鮮な印象を受けました。
- ・時間が少なく残念。朝からやつたらどうか。
- ・豊岡ならではのことでのことで、コウノトリに関する情報が多くいたと思いました。内容については、豊岡・但馬の環境保全の活動についても充実していて、学ぶことが多かったです。
- ・生活の場としている豊岡の地。生き物と共生することの大切さ、次代の宝として残すことの使命を感じました。
- ・司会の高校生、ごくろうさんでした。
- ・参加者は、高齢の方が多い中、司会の高校生3名のイキイキとした活躍が新鮮でした。
- ・オープニングの太鼓と紙芝居は、ステージ上でするなど、見やすくしてほしかったです。
- ・30年近く、めだかを外で飼育しています。とてもかわいいものです。今年は藻がはって、とてもとても大変です。気温のせいなのでしょうか。

第15回 全国めだかシンポジウム in 豊岡 アンケートまとめ2

- ・初めて、参加させていただきました。全国の多くの方が、メダカを通じて自然保護に努力されているということを感じました。私も今後、何か協力させていただきます。
- ・めだかを愛する仲間の集い。多くの全国の方々の活動をお聞きしました。メダカをキーワードに環境の抱える問題を考え、生き物の住みやすい地球、人の住みやすい地球について、再度、原点に戻って考えましょう。
- ・メダカを通して、地球に生きる私たちは、どうしたら良いかを思い、長く行動していくこと、後世に伝えていく事を再確認する。
- ・豊岡市では、環境を守ろうとしている人、団体がたくさんあり、活発な活動に驚きました。皆さん、協力され、活動を進めてください。
- ・豊岡が忘れられない地となりました。
- ・兵庫県では、環境を考える高校生の活動が各校で行われている事に感心しました。
- ・来年、次回はどこで開催されるのでしょうか。楽しみにしています。
- ・次回の開催地を教えてください。(同意多数)
- ・準備お疲れ様でした。(同意多数)
- ・実行委員長さん、ご苦労様でした。

◎2日目・体験教室 参加者の感想／コウノトリ文化館を中心に参加者数約60名

A：豊岡市内のビオトープ見学（25名）

- ・時間が少なく残念です。もっとゆっくりと回りたかった。
- ・豊岡では、たくさんのビオトープが展開・管理されていて驚きました。
- ・ククイ湿地。最高です。
- ・ククイ湿地。スコップ一本と言われながら、大変な尽力をされ、管理されていることが、よく伝わってきました。感激しました。
- ・豊岡の美しい自然に触ることができて良かったです。
- ・ビオトープの管理は、予想以上に労力が必要であることがわかりました。
- ・関係者の高齢化が課題ですが、ビオトープの管理やメダカの飼育などは時間がかかります。仕事を退職した60歳くらいの方を仲間にお説明したら良いのでは。
- ・豊岡の山や川・田畠など、素晴らしい環境に感動しました。
- ・コウノトリ郷公園、コウノトリ文化館、とても充実していて期待以上でした。
- ・一度絶滅したコウノトリがまた復活して、野生復帰できたことは、地元の皆さんの大変なご努力によるものと敬意を表します。
- ・コウノトリ郷公園、よく整備され素晴らしいです。
- ・コウノトリを間近に見ることが出来、豊岡に来て良かったと思いました。

B：メダカの受精卵の観察（約35名 コウノトリ文化館来館者の参加もあり）

- ・岩松先生の授業を楽しみに豊岡に来ました。素晴らしい授業でした。
- ・岩松先生の高い専門性、また愛情深いご指導に感銘を受けました。
- ・美しい命の輝きに感動しました。夢中で写真を撮りました。
- ・名古屋では、毎年このような授業をされているとお聞きしました。私たちもまた岩松先生の授業を受けたいです。
- ・名古屋からメダカを連れてこられたとお聞きしました。どのようにして連れてこられたのでしょうか。
- ・岩松先生の「五年生の理科『メダカの誕生』」の資料、講義とともに私の貴重な財産となりました。今後に活かします。
- ・ご参加の皆さん、受精卵の顕微鏡画像に感動しておられ、そのご様子を拝見して、私も教員として新たな学びがありました。この感動を子どもたちに伝えたいです。
- ・メダカの飼育と受精卵の観察について、本当に多くの貴重な内容を教えていただきました。
ありがとうございました。

第1回日本めだかトラスト研究大会 in 高知（案内文）

平成28年8月26日

日本めだかトラスト協会会員のみなさまへ
日本めだかトラスト協会
会長 岩松鷹司

『第1回日本めだかトラスト研究大会』のご案内

7月にご案内を差し上げましたが、本年度「第16回全国シンポジウム」の開催希望地が無かつたため、本年度は『第1回日本めだかトラスト研究大会』として下記の事業を実施することに致しました。ご多忙中のところ恐縮ですが、お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い致します。

「第1回めだかトラスト研究大会」プログラム

■ 出前授業視察

日 時：平成28年9月21日（水）13時30分～15時10分
会 場：日高村立日下（くさか）小学校（日高村教育委員会 TEL 0889-24-5115）

■ 講演会（講師：岩松鷹司会長）

演 題：『メダカたちの声なきさけび』
日 時：平成28年9月22日（秋分の日）10時20分～11時00分
会 場：高知県日高村運動公園野外ステージ
*「第5回仁淀川こども祭り＆めだかフェスティバル」の冒頭。
別紙をご参照ください。
*メダカの生息地視察バスツアー（岩松会長が同行）11時～15時
日高村～佐川町～四万十町～土佐市（オプション）のメダカ生息地視察

■ 出前授業視察

日 時：平成28年9月23日（金）10時55分～12時35分
会 場：高知小学校（高知市北端町100 TEL 088-844-4331）

◎岩松鷹司会長の出前授業および視察ツアーに参加ご希望の方は、事前に事務局にお申込みください。

◎宿泊される方は、一週間前までに下記まで直接お申込みください。

「国民宿舎土佐」（TEL 088-856-2451 fax 088-856-2452）

宿泊料：一泊2食付 大人7300円 小学生6300円・・・めだかトラスト会員と伝えてください。
※宿舎は太平洋を見渡す絶景の高台にあり、展望風呂は人気のスポットです。支配人の池上氏は古くからの生態系トラスト協会会員で、視察ツアーに使用するマイクロバスを無償でご提供いただいています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
<連絡先>日本めだかトラスト協会事務局：公益社団法人生態系トラスト協会内
〒786-0301 高知県高岡郡四万十町大正31-1 TEL/fax 050-8800-2816

第1回日本めだかトラスト研究大会 in 高知（報告）

2016年9月21日～23日まで、高知県で「第1回日本めだかトラスト研究大会 in 高知」を開催しました。

1日目は、岩松鷹司会長（愛知教育大学名誉教授）による日下小学校5年生の出前授業。岩松会長が愛知県刈谷市のご自宅から持参されたメダカの卵を100倍の顕微鏡から大きなモニター画面に映して、産卵後、1日目～8日目まで解説と実習。卵の発生が進んで殻を破って尾びれが動く様子に、子供たちは「おー」という感動の声をあげていました。当日は、高知新聞の記者が取材に訪れ、翌日の朝刊で紹介されました。

6/21 岩松会長出前授業
日高村日下小学校



6/23 高知新聞日高村でメダカ授業

夜は土佐市の国民宿舎「土佐」で19時～21時まで理事会が開催されました。理事会には、岩松鷹司会長、中村滝男副会長兼事務局長、群馬の大山啓三理事、福岡の今村高良理事と正会員の岸本武記氏、日高村から中野益隆理事と正会員の藤田浩氏、事務局から大谷加奈の8名が出席しました。

議事では、平成27年度事業報告、収支決算、平成28年度事業計画、収支予算等について事務局より報告があり、それぞれ承認されましたが、今回は欠席理事が多くだったので、あらためて追加の文書理事会を開催することになりました。理事会の議論の中で、「日本めだか年鑑」の発行費用が1年間の収入を大きく越えている現状を踏まえて、今後は輪転機による印刷や製本の簡略化、発行回数を減らすなどの対応を行うことになりました。会員数の減少を防ぎ、活動を活発にするための対策として、出前授業やメダカの生息地の現地調査などを組み合わせた活動を行うことや、現在の各団体名と併用して地域支部の名称を使うなどして、全国組織の存在感を示すことも提案されました。なお、支部を結成する際は、出前授業を行った学校の先生方に会員になってもらうという提案もありました。

2日目の9月22日は秋分の日の祭日に、日高村の運動公園で開かれた『第5回仁淀川こども祭&日高めだかフェスティバル』に参加しました。あいにくの雨模様のお天気でしたが、野外ステージ前の芝生広場に集まった聴衆は、岩松会長の「メダカたちの声なきさけび」という講演に熱心に耳を傾けていました。

講演終了後、「国民宿舎土佐」から無償で提供していただいた10人乗りの車で、事務局のある四万十町までメダカの生息地を視察しながら移動しました。参加者は、四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターを視察した後、下道地区にあるヤイロチョウの森も視察し、夕方、「国民宿舎土佐」に戻りました。

最終日の9月23日は、高知市のJR旭駅に近い高知小学校に出かけて、約50人の5年生を対象に、午前10時55分から顕微鏡をつかった2時間の出前授業を視察しました。この日は、日高村の授業に参加できなかった中野益隆氏や、愛媛大学教育学部講師の中村依子氏も参加されました。

最後に、高知小学校の橋本正博校長と視察研修に参加した会員が揃って高知小学校職員室の玄関前で記念写真を撮りました。



岩松会長講演、日高村運動公園にて



岩松先生の出前授業、高知小学校 5 年生



第5回日高めだかフェスティバルチラシポスター



前列左より、岩松会長、橋本校長、中村事務局長、中列は中村依子、
後列左より、大山、岸本、中野、今村 敬称略 高知小学校にて



各地の活動報告



1. NPO法人 四街道メダカの会（千葉県）



2. 藤沢メダカの学校をつくる会・同 PTA（神奈川県）



3. NPO法人 シニア自然大学校 調査研究部門・水辺環境調査会（大阪府）



4. 和泉めだかネットワーク（大阪府）



5. 福岡めだかの学校（福岡県）



6. 小嶺水辺の教室（福岡県）



7. NPO法人 メダカの学校かごしま（鹿児島県）



活動報告 1 ~~~~~☆☆

(千葉県)

団体名	◆ NPO法人 四街道メダカの会
住 所	◆ 〒284-0031 千葉県四街道市成山59 任海方
電 話	◆ 090-4204-3741 F A X ◆ 043-432-8701
E-mail	◆ s_tohmi@ybb.ne.jp
代表者・報告者	/ 任海正衛

1. これまで行ってきた主な活動

(1) 環境教育活動（学校等へ出前教室など）

- ・メダカ学習の支援
- ・メダカの提供
- ・メダカ学習の指導
- ・河川の学習援助
- ・市内河川でのフィールドワーク
- ・教室での授業

(2) 環境調査活動（メダカの分布調査など）

- ・市内の5つの河川の魚類を中心とした生物調査、水質調査
- ・市内のメダカが生息している水辺の調査

(3) 普及活動（出版・イベント・交流活動）

- ・講演会開催／15年度は、千葉県中央博物館副館長 中村俊彦氏 の講演
- ・観察会開催／15年度は、東京情報大学教授 ケビン・ショート氏 が講師
- ・水辺の探検隊／普段閉鎖されている雨水調整池を開放、魚類を中心にみんなで調査
- ・見学会開催／千葉県内陸水産試験場の見学
- ・めだか新聞発行（隔月） 約500部発行
- ・市民参加の田植え、稻刈り

(4) その他（特記事項）

- ・自然保全事業／市・他団体と共に「たろやまの郷」(5.8ha) の建設と谷津部分の保全
古代米を中心とした稲作を行う。
- ・メダカ田んぼ整備／メダカが自然に繁殖できるように、田んぼと水路を結ぶ魚道を作る。
太陽光発電装置を付け、常に水を確保。
- ・今年度はメダカの会創立15年、NPO移行10年。
それに伴いオリジナルTシャツ作り、記念冊子発行予定。

2. 今後、継続または新たに計画している活動

- ・これまで行った主な活動は継続して実施している
- ・会の活性化のために、「この指とまれ」活動をはじめる。
- ・会員の希望により、写真教室、パソコン教室を開催。

ホームページ http://sky.geocities.jp/npo_medakanokai/



◎ そうめん流し



◎ たろやま田植え



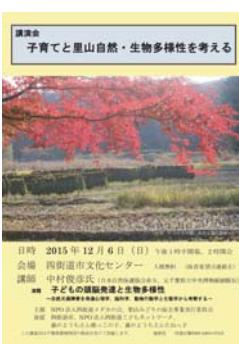
◎ たろやま稲刈り



◎ 小名木川



◎ 山梨小学校



◎ 講演会

活動報告 2 ~~~~~～☆☆

(神奈川県)

団体名	◆ 藤沢メダカの学校をつくる会・同P T A
住 所	〒251-0047 藤沢市辻堂6-8-14 (菊池久登宅)
電 話	◆ 0466-25-5099 (渡部かほり) FAX ◆ 同左 0466-30-4605 (菊池久登) FAX ◆ 同左
代表者・報告者	/ 菊池久登

1. これまでしてきた主な活動

1957年から、民家の池で系統維持されてきたメダカが発見されたのを契機に、「藤沢メダカ」と名付けて1996年に会を発足させ、学校や市民向けの啓発活動を行っている。現在、運営委員20名、会員約300名。

(1) 環境教育活動（学校等へ出前教室など）

- ◎ 児童生徒や市民に、市内の環境に关心を持ち、自然保全の意識を高めてもらうために、学校や会員に藤沢メダカを配布し、メダカを通した環境教育を行っている。
- ◎ 新江ノ島水族館なぎさの体験学習館を拠点に、小学生と家族を対象の「藤沢メダカの学校」を5月～翌年1月に全8講座行い、生態や飼育方法、環境教育の指導を行っている。
- ◎ 藤沢市教育文化センター主催の研修講座の中で、教員向けにメダカの生態、飼育法、観察方法、環境教育などを指導している。

(2) 環境調査活動（メダカの分布調査など）

- ◎ 藤沢メダカのふるさと「はす池」の生態調査を7月4日(土)に実施。藤沢市教育文化センター、県水産技術センター内水面試験場が協力。1998年から毎年7月に実施。
- ◎ 藤沢メダカ生態復元研究所・東京海洋大学主催の藤沢メダカ野生化調査に協力。藤沢メダカの放流式を藤沢市長鈴木恒夫氏の出席のもと10月17日(土)、引地川親水公園内湿性植物園で実施。DNAの経年変化を東京海洋大学が調査。
- ◎ 藤沢メダカの野生化できる場所を調査。



10月17日、大庭湿性植物園に放流

(3) 環境保全活動

- ◎ 藤沢メダカのふるさと「第1はす池」に会員と児童たちが育てたメダカを試験的に放流。持続的生息の可能性を市民と共に見守る。
- ◎ 「はす池」連絡会（はす池の自然を愛する会、町内会の団体等）に所属。アゾラバスターズに加盟。特定外来生物の除去作業や定期整備作業に参加。

(4) 普及活動（出版・イベント・交流活動）

- ◎ 藤沢市下水道フェア、藤沢市総合かがく展、藤沢市環境フェア等で活動内容を発表。
- ◎ 年1回、会員の交流会を行い、その中で小田原市や三浦市の活動報告会も行っている。
- ◎ 年2回「メダカだより」を会員に配布し、活動状況や自然環境の情報を提供している。
- ◎ 多くの市民に知ってもらうため、藤沢市役所メダカ池の清掃管理を毎週行っている。

2. 今後、継続または新たに計画している活動

- ◎ 第1蓮池に続き、藤沢メダカのふるさと「第2はす池」にメダカを放流し野生化する戻す取り組みを模索している。また、運営委員の高齢化に伴い、今までの活動の見直しを行い、今後も活動が継続していけるような体制作りを行う。

活動報告 3 ~~~~~ ☆☆

(大阪府)

団体名	◆ NPO 法人 シニア自然大学校
住 所	〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 405 号
電 話	◆ 06-6937-8077 F A X ◆ 06-6937-8078
E-mail	◆ office@sizen-daigaku.com
代表者	／ 代表理事 児玉利恒
報告者	／ 調査研究部門 水辺環境調査会 北坂正晃、林 美正

1. これまで行ってきた主な活動

水辺環境調査会は、1999年以来 淀川・大和川水系など身近な水辺でメダカ、カエル、カメ等の水生生物の生息状況を、市民と共に継続的に調査している。こうした調査を踏まえてはじめて次世代に残すべき多様な生き物の棲む環境を保全することができると考えている。以下に2015年度の活動状況を報告する。

1) 環境教育活動（学校等へ出前教室など）

- (1) 「大阪府に於けるメダカ生息と遺伝子攪乱の状況に関する調査研究」：
2012 年以来、大阪府立大学 生命環境研究科（平井准教授）との共同調査研究を実施している。当会としての報告書「第四次メダカ調査報告：大阪府に於けるメダカの遺伝子型分布に関する報告」（仮題）を 2016 年に出版することを目指している。

(2) 第三次大阪府カエル生息調査：
これまで市民・外部団体並びに当会会員を中心実施してきた第三次大阪府カエル生息調査の結果を 2015 年 3 月、「大阪府に於けるカエルの生息状況報告（第 3 報）－第三次カエル生息調査並びに補充調査結果－」として出版した。当報告の概要是、「第 15 回日本めだかシンポジウム in 豊岡」（2015.08）でポスター展示、引き続き「関西自然保護機構 2016 大会」（3 月）でも展示発表した。

(3) 大阪府における希少生物並びに外来水生生物の生息調査：継続調査中である。

2) 環境調査活動（メダカの分布調査など）

大阪府下の幼稚園、小学校、地域環境団体を対象に、水辺の生き物と生息環境に関する体験学習観察会や出前授業を実施。(延約 300 名)

2. 今後、継続または新たに計画している活動

- 1) 水辺の生き物の広域市民調査と共に、‘大阪府レッドリスト 2014’ 収載の希少水生生物に特化した精度の高い生息調査に挑戦している。今後のレッドリスト改訂に資することができればと考えている。
 - 2) 生物多様性に関して、外来生物による遺伝子型攪乱に関する調査と啓蒙活動を継続中である。



'水辺の生き物学習観察会' 出前授業



'夏休み・水辺の楽校' 風景



カエル調査ポスター発表 (KONC2016大会)



淀川干潟'シジミ掘り' 講師派遣

(NPOシニア自然大学校水辺環境調査会)

活動報告 4 ~~~~~ ☆☆

(大阪府)

団体名 ◆ 和泉めだかネットワーク
住所 ◆ 大阪府和泉市鶴山台3-9-21-202
電話 ◆ 0725-44-0742 FAX ◆ 同左
E-mail ◆ hondanob@mtb.biglobe.ne.jp
代表者 ／ 藤本 幸晴 (ふじもと ゆきはる)
報告者 ／ 事務局 本田 信美 (ほんだ のぶみ)

1. これまで行ってきた主な活動

2001年（平成13年）にスタートした当会の活動も15年目を迎えました。メダカが大好きで元気一杯だったスタッフも高齢化には勝てず、補充もままならないこともあって年々活動範囲が狭くなっているのが残念なところです。

◎ 現在は、次の三本柱を中心に活動しています。

- ① 近隣の小学校では5年生の理科で「受けがれる命」が教えられていますが、その中に動物の誕生（メダカの誕生・ヒトの誕生）があります。例年5月から6月にかけて小学校からの要請で「めだかの学校」を開き、生きたメダカと受精卵を持ち込んで、メダカの生態を詳しく知つもらうとともに、水辺環境の大切さを訴えています。孵化間近の受精卵を顕微鏡で観察して、心臓の動きや血液の流れを見ると生徒たちから一斉に感動の声があがります。生命の神秘を目の当たりにしての感動です。一番人気がある観察体験です。
 - ② 和泉市リサイクルプラザ彩生館の要請で、環境講座の一環として「めだかの学校」を開いています。対象は一般市民の中から公募により選ばれた受講生です。ほとんどが年齢層の高い年代の方ですが、メダカの飼育経験がある方が多く非常に熱心で質問も多岐にわたります。
 - ③ 和泉市商工まつりの一環で開催される上下水道フェアの会場で、要請により「めだかの学校」を開いています。13年間続いているイベントで、2日間で9回開講しますが、毎回受講券を入手するために長蛇の列ができます。対象は一般的な来場者ですが、毎年約500人が受講されます。

2. 今後、継続または新たに計画している活動

アユの遡上が復活した槇尾川水系河川の周辺の小学校では、毎年水質調査と水辺の生き物の生息調査を行っていますが、可能な限り支援をしていく予定です。

* 小学校での「めだかの学校」風景 実験と体験



(けんび鏡で受精卵の観察)



(水草に卵がついているよ)



(流れにさからって泳ぐよ)



(受精卵はかたいなあ !!)

～お知らせ～

先日、総会を開催し今後の活動について討議をしました。
その結果、今年度から当分の間 会の活動を中止することに決まりました。
従って、誠に残念ながら 日本めだかトラスト協会も脱退をせざるを得なくなりましたのでご連絡させて頂きます。

2001年9月に発足しました当会も、会員の減少と高齢化のため、無理をせず出来る範囲での活動を、ということで何とか有志のみでこれまで続けてきましたが、メインスタッフの逝去や罹病のため、これ以上の継続は無理という結論になりました。誠に申し訳ない次第ですが、初事情ご賢察の上よろしくお取り計らいお願ひいたします。

なお、会としては会費も集められなくなりましたので協会を脱退いたしますが、個人会員として私は残らせて頂きたく思いますので、よろしくお願ひします。

和泉めだかネットワーク／事務局 本田信美

活動報告 5 ~~~~~ ☆☆

(福岡県)

団体名	◆ 福岡めだかの学校	ホームページ『福岡メダカの学校』
住 所	◆ 〒819-0161 福岡市西区今宿東3-10-9	
電 話	◆ 092-907-9251	F A X ◆ 同左
E-mail	◆ kan40mdk@knd.biglobe.ne.jp	
代表者・報告者		／ 與小田 寛（よこた ひろし）

1. これまで行ってきた主な活動

(1) 環境教育活動（学校等へ出前教室など）

○めだかの生息地と遺伝子の型の分布調査

- ・有明海西岸部 西九州亜群の遺伝子のメダカの生息調査
 - ・長崎県大村湾西海岸 . . . 西九州亜群の遺伝子のメダカの生息調査
 - ・大分県湯布院周辺 . . . 大隅亜群の生息範囲の調査

*九州の東海岸部は、大隅亜群の遺伝子を持つメダカが広範囲に生息している。

(2) 普及活動（出版・イベント・交流活動）

○子供を対象に「メダカの学校」を開催し、メダカの生態や自然環境の様子を紹介。

①福岡市西区金武公民館



②福岡市西区今宿公民館



2. 今後、継続または新たに計画している活動

○長崎県と鹿児島県の離島のメダカの遺伝子調査。現地のメダカ関係者との情報交換。

活動報告 6～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～☆☆

(福岡県)

団体名	◆ 小嶺 水辺の教室 (平成 11 年設立)
住 所	◆ 北九州市八幡西区小嶺3丁目
電 話	◆ 093-612-7593 / 093-612-7593 (今村)
E-mail	◆ eco-komine@jcom.home.ne.jp
代表者	／ 加来 重美 (かく しげみ)
報告者	／ 今村 高良 (いまむら たかよし)

1. これまでしてきた主な活動

(1) 環境教育活動 (めだか等の学習活動)

- ・大原小学校の5年生 教材用メダカの採取、現地学習支援
- ・北九州エコライフステージ 2016 出展、メダカの地域個体群の保護活動の啓発

(2) 環境調査活動 (めだか等の調査活動)

- ・飼育下のメダカ 寿命観察 (2008 年～継続中)
2008 年生まれ 1942 日、 2009 年生まれ 1558 日、 2010 年生まれ 2280 日
2011 年生まれ 2193 日 (2017.5.1 現在 7 年目生存中) 以降 2017 年まで継続中
※起算日は最終の試料個体が孵化した日としている。

(3) 環境保全活動 (めだかの生息地の保全・池などの整備活動)

- ・2016 年 台風 15 号でメダカ池北下池側法面崩落 (12m 間フェンス下池側に落下)
法面の復元は管理者の北九州市の農政課にて復旧
2017.2.26～3.4 フェンスの復元を地元の有志で完了した。

(4) 普及活動 (イベント・交流活動)

- ・第 15 回 小嶺メダカまつり緊急中止
インフルエンザ流行で開催前日 (9 月 3 日) と当日 (9 月 4 日) 小学校に外出禁止令
- ・北九州エコライフステージ 2016 に出展 2016 年 10 月 8 日 (土)～9 日 (日)
テーマ「里山の自然を守る 楽しむ」
 - ①メダカ池の紹介、メダカの展示 (成魚、稚魚、卵)
経年メダカ 6 年目までを展示、顕微鏡による卵の観察も人気 1100 名の来場者
 - ②トンボ池 (浦の谷池) の水辺環境の保全活動の紹介
 - ③中島川のゲンジボタルの保護と葉山のヒメボタル保護活動展示
 - ④森を守る活動・・・孟宗竹の間伐と竹炭づくりを適宜実施

(5) その他

- ・飼育下のメダカの寿命を観察中であるが、2015 から孵化日が遅れている。
2014 までは、起算日を 5 月 1 日としていたが、2015 は 15 日、2016 年は 1 ヶ月起算日を遅らせている。なぜ!? 間接的に聞いた話だが、熊本の人が熊本地震の影響だと云われたそうだ?

2. 今後、継続または新たに計画している活動

- ・入口の看板や、その他の標識の整備が遅れている。予算と相談しながら整備する。

3.添付写真

◎北九州エコライフステージ 2016 出展



小嶺 水辺の教室ブース



長寿メダカの展示水槽



めだかの卵 頭微鏡観察

2015 対風15号による葉山下池側の法面崩落と復旧状況 2016.2.26~3.4



葉山下池側の崩落した法面
市中5本、6スパンのフェンスが崩落した



管理者の農政による法面の補修完了
滑落したフェンス類の回収も行われた



地元のメンバーによるフェンスの復旧作業、
約一週間、延べ40名の作業で完了

作業風景と復旧後の風景



活動報告 7 ~~~~~☆☆

(鹿児島県)

団体名	◆ N P O 法人 メダカの学校かごしま
住 所	〒890-0023 鹿児島市永吉2丁目 32-5
電 話	◆ (099) 257-8143 F A X ◆ 同左
E-mail	◆ dgd720595@qqr.bbiq.jp
ホームページ	◆ http://www1.bbiq.jp/medakago/
代表者	/ 理事長 久本勝紘 (ひさもと かつひろ)
報告者	/ 事務局長 池田博幸 (いけだ ひろゆき)

1. これまで行ってきた主な活動

(1) 環境教育活動 (めだか等の学習活動)

2016年

5月3日 (火) 予定されていた「春の甲突川 生きもの観察会」は雨のため中止。

5月5日 (木) 「春の岳の池 生きもの観察会」 講師：成見和總先生

参加者；大人 21 名 子ども 13 名

・あたらしい生き物の発見無し。長引いた寒さ、久しぶりの大雪、雨の多さなどの影響なのか、いつも観察される生きものの数も少ないように見えた。水路に異常に繁茂したアカウキクサ、オオカナダモ、他の水生植物の除去作業に手間取った。

《観察された生き物たち》

メダカ、アカハライモリ、トノサマガエル、ニホンアマガエル、サワガニ、ヌマエビ、マツモムシ、ヒメガムシ、アメンボウ、種々のヤゴ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、クロイトトンボ、アオモンイトトンボ、ホソミイトトンボ、他いくつかのイトトンボ、クロアゲハ、ヤマカガシ 1 匹

7月31日 (日) 夏の甲突川 水辺の自然観察会

主催；鹿児島地域振興局河川港湾課

協力・名づけ観察指導 (財) 鹿児島県環境技術協会

参加者募集 N P O 法人メダカの学校かごしま

ここ何年か事前広報と参加者募集で協力参加させていただいている。

参加者；親子 20 組 40 数名 主宰・関係者約 20 名 計約 60 名

《観察された生きもの》

スズキ (50cm) 1 匹、アユ (15~20cm) 3 匹、オイカワ (10cm 前後) 10 匹ほど、二ホンウナギ (10cm~40cm) 5 匹、カワアナゴ (8cm、20cm) 2 匹、ドンコ (10cm) 1 匹、ゴクラクハゼ、チチブ、ヨシノボリ、カワトンボのヤゴ、コオニヤンマのヤゴ、オニヤンマのヤゴ、ナミアメンボ、トゲナシヌマエビ、ミゾレヌマエビ、ヒメヌマエビ、ミナミテナガエビ、モクズガニ、クロベンケイガニ、ミシシッピアカミミガメ

8月7日 (日) 地域まるごと共育講座、「夏の岳の池 生きもの観察会」

主催；かごしま環境未来館 メダカの学校かごしま

講師；成見和總先生

参加者；大人 18 人、子ども 19 人 (参加申込者 50 名)

《観察された生きもの》

二ホンメダカ、ヒメダカ、アカハライモリ、タガメ (鹿児島市では長年 (20 年 ?) 観察されていなかった !) オタマジャクシ、トノサマガエル、ツチガエル、ヌマガエル、ニホンアマガエル、サワガニ、ミナミヌマエビ、マツモムシ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ギンヤンマ、

マユタテアカネ、オニヤンマ、ヤブヤンマ、ウスバキトンボ、クロイトトンボ、アオモンイトトンボ、ホソミイトトンボ、リュウキュウベニイトトンボ、モノサシトンボ、アオスジアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジヤノメ、ウラギンシジミ、ルリシジミ

(声から) ニイニイゼミ、ウグイス、ヒヨドリ、コジュケイ、マヒワ、シジュウガラ、ハシブトガラス（平成27年）

☆今回のタガメ6匹の採取はすべて、この「岳の池」で生まれて育っていることが推測される若い成虫とのこと。また、ルーペで見るとアカハライモリの幼生がサンショウウオ（あるいはウーパールーパー）のように見えることを学んだ。タガメに次いでサンショウウオまで採取か！！大発見！！と大喜びしていたのだが、鹿児島県立博物館に写真を送って確認したところ、「アカハライモリの幼生」とのことだった。

(2) 環境保全活動（めだかの生息地の保全・池などの整備活動）

2015年(平成27年)

3月24日(火) 岳の池 整備作業 水路一面にはびこった特定外来種のアカウキクサとオオカナダ藻の除去作業中心。去年から少しづつ増えて来ていたアカウキクサが池の全面を覆い、水底に光が届かない状態だった。取っても取っても取りきれない！

4月3日（金） 岳の池の上の方、「メダカ池」の丸木橋の付け替え作業

4月29日(水) 岳の池の整備作業 草刈り中心

5月25日(月) 岳の池の外来種キショウブ除去作業

5月26日(火) EM団子づくり

7月17、18日（金・土） 岳の池の木道および観察デッキ取り扱え工事

11月9日(水)「岳の池」の整備作業

2016年(平成28年)

3月10日(木) 12日(土) 丘の池整備作業

7月17日(日) 木戸地区自治会と兵の渋整備作業

11月9日(水) 兵の渋整備作業

12月9日(金) 兵の池整備作業

2017年(平成29年)

4月2日（日） 郡山甲陵ライオンズクラブによるボランティア「岳の池」整備作業
重機を入れた作業

(3) 普及活動（イベント・交流活動）

2015年(平成27年)

1月7日(水) 本岳地区 鬼火焚きに参加

3月15日（日）久木野小学校閉講式に参加

3月下旬 「メダカの学校 岳の池」がごしま自然百選に選ばれる。

4月15日（水） 重度心身障礙者施設「オレンジ学園」で「メダカのコンサート」

4月26日(日) 岳町本岳地区大運動会に参加

6月20日(土) 岳の田植え

7月初旬～8月2日（日） 環境未来館 活動報告「岳の池中心の写真展」

7月12日（日） 第3回「メダカのコンサート in こおりやま」

8月 8日（土） 第25回「メダカのコンサート」 宝山ホール

8月22, 23日（土・日） 第25回全国めだかシンポジウムに参加

10月11, 12日（土・日） かごしま環境フェスタ（環境未来館）

10月17日（土） メダカのコンサート in ひとくら

10月17日（土） 環境フェスタ in よしだ

10月24日（土） 岳の田んぼで稻刈り

12月18日（金） N P O 法人メダカの学校かごしま 交流忘年会

12月19日（土） 「メダカの子ども合唱団＆マミーズ」餅つき大会

12月20日（日） 更生保護施設 草牟田寮 で「メダカのコンサート」

2016年(平成28年)

1月 7日（木） 郡山本岳地区 鬼火焚きに参加

1月28日（木） 地域FM 「FMぎんが」で「メダカの学校」を語る

1月30日（土） 環境子どもサミットで「メダカの子ども」が発表

1月31日（日） 「つなげよう、支えよう森里川海」フォーラムで発表

2月21日（日） 地域まるごと共育講座 実施団体交流会に参加

2月21日（日） 鹿児島西ロータリークラブ「ロータリー賞」を受ける

2月27日（土） 「環境子どもサミット」のふりかえり反省会に参加

2月28日（日） ハートピア視覚障害者との「ふれあいコンサート」

4月13日（水） 重度心身障害者施設「オレンジ学園」でコンサート

5月21日（土） 久木野小地区第21回ホタルとメダカのコンサート

8月 7日（日） 本岳地区 熊野神社夏祭りに参加

8月21日（日） 第26回「メダカのコンサート」（宝山ホール）

9月27日（火） 郡山甲陵ライオンズクラブ例会で久本勝紘理事長講話

10月15日（土） 16日（日） かごしま環境フェスタに参加

11月13日（日） 本岳地区で「メダカの子ども」芋ほり体験

11月17日（木） 鹿児島県更生保護功労者 顕彰式で感謝状をいただく。

12月 3日（土） 「メダカの子ども」餅つき大会

12月18日（日） 本岳地区忘年会に参加

2017年(平成29年)

1月 7日（土） 本岳地区 鬼火焚きに参加

2月 23日（木） 鹿児島市「第2回 市民一斉生きもの調査実施に向けた
基盤整備事業にかかる意見交換会」に委員参加

3月 11日（土） 6年目の3・11東日本大震災メモリーコンサート

3月 12日（日） 原良小学校プラスバンド部コンサートに
「メダカの子ども」合唱団＆マミーズが賛助出演

3月 19日（日） 視覚障碍者とのふれあいコンサート 15年目出演

3月 24日（金） 環境パートナーシップセミナーに出席

4月 1日（土） 「ママプラスみゅう」コンサートに「メダカの子ども」



2016年5月5日 岳の池 春の生きもの観察会



2016年7月31日 甲突川 水辺の自然観察会



2016年8月7日 地球まるごと共育講座
岳の池 夏の生きもの観察会



2016年11月13日 芋掘り大会（郡山岳）



2016年8月21日メダカのコンサート（宝山ホール）



2016年3・11東日本大震災メモリアルコンサート

平成 27・28 年度 理事会報告・平成 29 年度 理事会・総会の議題について

◎平成 27 年度 理事会

開催日時：平成 27 年 8 月 22 日（土）11 時～12 時

場 所：じばさん TAJIMA 2F 第一交流センター

出席者：12 名（岩松鷹司会長、中村滝男事務局、他 10 名）

議題 1、平成 26 年度事業報告と収支決算に関する件

議題 2、平成 27 年度事業計画と収支予算に関する件

上記の 2 件の議題について一括審議した。事務局より、平成 26 年度は福井県越前市で第 14 回全国めだかシンポジウムが開催されたことが報告された。また、次年度は開催地の立候補が無かったので、どうしても決まらなかった場合は、事務局において代わりのイベントを計画したい旨の報告があった。また、事務局のベテラン事務員の退職に伴い決算報告は来年度に一括審議することが承認された。

◎平成 28 年度 理事会

開催日時：平成 28 年 9 月 21 日（水）19 時～21 時

場 所：国民宿舎土佐 会議室

出席者：8 名（岩松鷹司会長、中村滝男事務局、他 6 名）

議題 1、事務局の運営に関する件

事務局より、本年度は全国めだかシンポジウムに代わって、岩松会長の提案もあり、日高村や高知小学校の協力もあり、出前授業の視察・研究を柱とする研究大会の開催に至った旨報告があった。事務局より、理事会提出書類の準備が進まないことから、決算書類の作成を経理専門の会社などに外注し、来年度に一括して提出したい旨提案があり、全会一致で承認された。また、来年度は 9 月当初に山梨県富士吉田市の明日見湖で、「メダカの生息する田んぼ」を子どもたちと管理している勝俣源一さんから開催の内諾を得ている旨報告があり、協議の結果、全員一致で次年度の「全国めだかシンポジウム」は山梨県で開催することが承認された。

◎平成 29 年度理事会・総会の議題について

これまで、日本めだかトラスト協会事務局では、岩松鷹司会長の出席の下、全国めだかシンポジウムの開催に併せて各年度毎の理事会、総会（2 年に 1 回）を開催してきた。岩松会長が名古屋市の東山動植物園にある「世界のメダカ館」の開設に協力されたご縁もあって、事務局を高知県から愛知県に移転した時期がある。具体的には、元動植物園長さんが日本めだかトラスト協会の事務局長となり、地元のボランティアの女性が事務を担当されたが、名古屋市の方針により東山動植物園内に事務所を置くことができず、さらに、元動植物園長さんが急逝したことなどもあり、名古屋での事務局の運営に支障が出るようになったことから、岩松会長の強い要請により、最初に事務局を担当した当協会に事務局担当が戻ってきて今日に至る。しかし、上記理事会報告のように現在の当事務局は執行体制が弱まっており、継続が困難な状況に至っている。

よって、平成 29 年度開催の理事会・総会において、現事務局の交代を議題として提案したいので、新事務局について事前にご検討くださいますようお願いいたします。

平成 29 年 6 月吉日

日本めだかトラスト協会事務局長 中村 滝男

第16回全国めだかサミットシンポジウム in 明見湖

とき：平成29年9月2日（土）・13時～15時

ところ：富士吉田市立明見湖公園（はす池）

山梨県富士吉田市小明見 3356

2017年
開催！

講演会 ◎講演会講師：東京大学大学院新領域創成科学研究所

生端生命科学専攻 准教授 尾田 正二先生

理事会・総会 ◎講演会終了後に同会場で行います

視察 ◎勝俣源一さんによる地域（メダカの田んぼ）の視察

主 催：明見湖里山フェスティバル実行委員会、日本めだかトラスト協会

◆ 同日開催 / 明見湖環境フェスティバル ◆

とき：平成29年9月2日（土）午前10時～午後4時

近年外来種の影響や劣悪な環境でめだかが生息できなくなった明見湖。

めだかは保護育成していく明見湖の環境も保全活動等の成果により徐々に改善されました。

素晴らしい里山のフィールドを活かしたフェスで、明見湖の魅力を発信していきます。



フェスティバルのようす



フェスティバルのようす



連絡・お問合せ・・・事務局／富士吉田市役所環境政策課

TEL 0555-22-1111 FAX 0555-24-2235

E-mail : kankyo@city.fujiyohida.lg.jp

日本めだかトラスト協会 入会のご案内

目的 / (規約第2条) 日本めだかトラスト協会は、メダカにかかる全国の関係者が参加し、メダカと人が共生するために必要な環境教育、環境調査、環境整備、普及啓発等の環境保全活動を進める目的とします。
*協会の目的に賛同される方はどなたでも会員になります。

設立 / 2000年(平成12年)12月9日

会員数 / 約80名(法人含む) 2015.4.1現在

役員等 / 会長 岩松 鷹司(愛知県:愛知教育大学名誉教授)
副会長 兼事務局長 中村 滉男(高知県高知市:公益社団法人生態系トラスト協会会長)
理事 佐藤 政則(山形県天童市:山形めだかの学校)
理事 大山 啓三(群馬県前橋市:野メダカを育てる会)
理事 菊地 久登(神奈川県藤沢市:藤沢めだかの学校を作る会副会長)
理事 高橋 由季(神奈川県小田原市:酒匂川水系魚類調査会)
理事 岩井 光子(愛知県名古屋市:エッセイスト)
理事 山本 典子(愛知県名古屋市:元岐阜大学教授)
理事 奥村 充司(福井県越前市 武生めだか連絡会)
理事 笹木 智恵子(福井県敦賀市:ナチュラリスト敦賀・緑と水の会)
理事 岡本 邦夫(兵庫県豊岡市:豊岡六方めだか公園)
理事 植田 建造(鳥取県境港市:米子地区環境を考える企画会懇話会)
理事 中野 益隆(高知県日高村:NPO グラウンドワークひだかむら理事長)
理事 今村 高良(福岡県北九州市:小嶺水辺の教室事務局長)
理事 與小田 寛(福岡県福岡市:福岡めだかの学校)
理事 久本 勝紘(鹿児島県鹿児島市:NPO メダカの学校かごしま理事長)
(平成27年4月1日現在)

主な活動 / 日本めだか年鑑の発行(全国シンポジウム結果&会員等による活動報告を掲載)
全国めだかシンポジウムの開催(平成26年度までに全国各地で14回開催)

<年会費>

平成25年4月1日改正

○正会員 3,000円(役員は5,000円)

○団体(法人)会員 (一口)10,000円

日本めだかトラスト協会 事務局

〒786-0301 高知県高岡郡四万十町大正31-1

TEL・FAX: 050-8800-2816

(生態系トラスト協会内)

E-mail ecotrust@me.pikara.ne.jp

.....切り取り.....

◎日本めだかトラスト協会お申込み希望の方は下記にご記入の上、事務局までお送りください。

住所	〒 一
氏名	
Tel / Fax	

【編集後記】

メダカの生息できる水辺の自然環境を丸ごとナショナル・トラスト手法により保全する志をもって、1999年8月に全てのメダカ関係者に呼びかけて第一回全国シンポジウムを高知県で実施し、2000年12月に大阪で開催された第2回シンポジウムの開催に併せて、日本めだかトラスト協会は設立されました。設立から、今年で17年目。それ以前から活動されていた団体もたくさんありましたが、少子高齢化の影響もあり、新しい若い会員が増えないままに、解散になってしまった団体もあります。

全国各地の団体が持ち回りでシンポジウムを開催してきましたが、次第に開催に手を上げる団体が減って2巡目に入った団体もあります。そこで、全国シンポジウムに応募団体が無かった2016年9月には、高知県で「第1回日本めだかトラスト研究大会」を開催しましたが、全国的な高齢化と会員減少によるパワーの落ち込みは改善されていません。岩松鷹司会長による小学校への出前授業は子どもたちにインパクトを与える素晴らしい内容でしたが、指導者の育成が鍵になりそうです。

生態系トラスト協会は、平成20年に高知市の市街化区域内農地の寄贈を受けて、平成21年より高知市に「いきものふれあい鶴田公園」を設置し、子どもたちや地域住民の方々に利活用しているだけです。これまで、地下水のポンプアップにより「メダカ池」を設置し維持管理しており、トンボなどの昆虫類や水生植物が見られます。

幸いにも、今年度は9月2日（土）に、山梨県富士吉田市の明日見湖で開催が決まりました。当協会会員の勝俣源一さんが、湖の横の水田で、地域の子どもたちと田植えや稻刈りをしながら、メダカの泳ぐ明日見湖のメダカ米をつくっておられます。この「第16回全国めだかサミットシンポジウム IN 明日見湖」で2年ぶりにお目にかかりましょう。

平成29年6月吉日
日本めだかトラスト協会 事務局長 中村 滉男

日本めだか年鑑

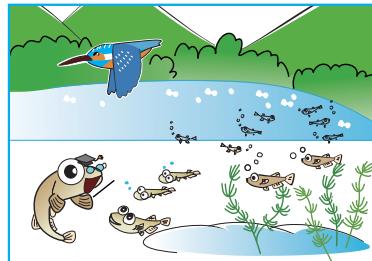
2016年版・2017年版

発行 / 平成29年6月

編集 / 日本めだかトラスト協会事務局長 中村滄男

発行人 / 日本めだかトラスト協会会長 岩松鷹司

事務局 / 〒786-0301 高知県高岡郡四万十町大正31-1 TEL・FAX : 050-8800-2816





コウノトリ生息地保全の水田ビオトープで元気に泳ぐメダカたち



日本めだかトラスト協会事務局

〒786-0301 高知県高岡郡四万十町大正 31-1
TEL・FAX：050-8800-2816 (生態系トラスト協会内)